研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-730		17-083	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol consumption, cigarette smoking and incidence of aortic valve stenosis.
アルコール消費量、喫煙と大動脈弁狭窄症の罹患率

執筆者

Larsson SC, Wolk A, Bäck M.

掲載誌

J Intern Med. 2017 Oct;282(4):332-339. doi: 10.1111/joim.12630.

キーワード	PMID
アルコール、大動脈弁狭窄、喫煙、前向き研究、危険因子	28494128

要　旨

目的

2 つの前向きコホートにおいて、飲酒と喫煙習慣の大動脈弁狭窄症（AVS）罹患率に対する関連を検討した。

方法：

The Swedish Mammography Cohort または the Cohort of Swedish Men 参加者のうち、ベースライン時に心血管疾患既往のない成人 69,365 人を対象とした。飲酒（飲酒量、頻度、種類）と喫煙（喫煙強度[pack-year]＝喫煙年数[year]×平均喫煙本数[pack of cigarrettes]）習慣は、1997 年のアンケートにより調査した。飲酒習慣別に対象者を 6 つに分類し（①生涯非飲酒、②<1 drink/週、③1-6 drinks/週、④7-14 drinks/週、⑤15-21 drinks/週、⑥>21 drinks/週）、1drink は 12g のアルコールと定義した。また喫煙習慣別に 9 つに分類した（①生涯非喫煙、②過去喫煙<10 pack-year、③過去喫煙 10-19 pack-year、④過去喫煙 20-29 pack-year、⑤過去喫煙≧30 pack-year、⑥現在喫煙<10 pack-year、⑦現在喫煙 10-19 pack-year、⑧現在喫煙 20-29 pack-year、⑨現在喫煙≧30 pack-year）。The Swedish National Patient and Causes of Death Registers との突合により、AVS 罹患と死亡を追跡した。Cox 比例ハザードモデルにより、ハザード比（HR）と 95%信頼区間（CI）を性別に推定した。年齢を時間尺度とし、調整変数は、教育歴、体格指数、糖尿病・高血圧・脂質異常症の有無、そして飲酒と喫煙の解析では、それぞれ喫煙習慣、飲酒習慣と心房細動を調整した。

結果：

平均 15.3 年の追跡期間中、1,249 人（女性 494 人、男性 755 人）が AVS に罹患した。少量飲酒（1-6 drinks/週）は、生涯非飲酒と比べ AVS 罹患が有意に低値を示した（多変量 HR: 0.82、95%CI: 0.68-0.99）。喫煙強度の増加に伴い AVS 罹患は増加した。現在喫煙（≧30 pack-year）は、生涯非喫煙と比べ AVS 罹患が有意に高値を示した（多変量 HR: 1.46、95%CI: 1.16-1.85）。10 年以上前に禁煙した者は、生涯非喫煙者と同様のリスクであった。

結論：

少量飲酒は AVS 罹患の低下と関連し、禁煙により AVS 罹患は低下した。